

# ミズベリング勉強会(6) 河川に経済圏を作ろう！水辺で起業？！

日時:平成31年2月26日(火)13:15~17:15  
場所:さいたま市さいたま新都心合同庁舎2号館中研修室5B  
参加者:28団体40人(民間14、自治体4、国等8、大学2)

## プログラム

1. 関東のミズベリング・プロジェクト  
【関東地方整備局河川環境課課長補佐 黒沼尚史】  
【荒川下流河川事務所ミズベリング推進室長 吉田 康博】
2. 東京都北区政策課題研究会ROSE(ロゼ)  
【東京都北区政策経営部企画課主査野田和希】
3. TAMARIBA  
【コマエカラー代表篠塚雄一郎】
4. ヒト・モノ・マチをつなぐ城北信用金庫のビジネス支援  
【城北信用金庫理事長大前孝太郎・コミュニケーション開発事業部越野理恵】
5. 水辺経営クラウドファンディング  
【E-DESIGN代表忽那裕樹】
6. 水辺活用の可能性を創造する  
【関東地方整備局河川部長 佐藤寿延】
7. 座談会  
テーマ:水辺の様な「公共空間」を使って稼ぐ「河川に経済圏を作ろう！」



○河川での事業は初めての取り組みとなり、採算性の判断が難しい。  
○クラウドファンディングをどう使っていけばいいのか？  
→初めてやる取り組みに向いているというのがやってみた感想  
→出資した人に「このイベントは自分が育てた」と思って貰えるツール  
→テストマーケティングとして消費者の反応を見るのに適している。あらたな取り組みをスタートさせる際に市場調査としてミズベリングの取り組みに活用できるのではないかと考えている。  
→モノやサービスが溢れている供給側が厳しい状況では、いい物だから売れるという分けでもなく、取り組みに賛同してくれる顧客のネットワークを作っていくことが先では無いかと思っている。  
→ある地域で「次世代の子供のためにいくら出せますか？」という募集でその地域を計ることができ、集まったお金で居場所作りをして、行政には居場所作りの権限をくれる。そういう使い方の可能性もある。  
○お金の切れ目が縁の切れ目。助成金等に頼った取り組みは、助成がなくなった時点で立ち行かなくなる。継続には事業収益確保が重要  
※その他多くの貴重なお話を頂きました。詳細は別の機会にご紹介します。



黒沼補佐



大前理事長

越野理恵



吉田室長

野田主査

篠塚代表

忽那代表

佐藤河川部長

